

<b>第6次高浜市総合計画推進会議（第2回） 会議録</b>			
<b>日時</b>	平成28年7月22日（金）午後7時～8時30分		
<b>場所</b>	高浜市役所 第2会議室（4階）	<b>傍聴人数</b>	3名
<b>出席者</b>	<b>委員</b>	中川幾郎、酒井康満、岩月義成、菅野洋一、清水恵子、高桑雄司、竹内一仁、田代峯子、内藤靖子、古橋知美、宮田克弥、神谷坂敏 (12名出席)	
	<b>行政</b>	市長 吉岡初浩 教育長 都築公人 総務部長 内田徹 市民総合窓口センター長 大岡英城 福祉部長 加藤一志 こども未来部長 中村孝徳 都市政策部長 深谷直弘 議会事務局長 加藤元久 財務グループ リーダー 岡島正明 文化スポーツグループ リーダー 鈴木明美 学校経営グループ リーダー 内藤克己 学校経営グループ 主幹 岡本竜生 こども育成グループ リーダー 都築真哉 地域産業グループ リーダー 板倉宏幸 市民生活グループ リーダー 芝田啓二 都市整備グループ リーダー 田中秀彦 都市防災グループ リーダー 神谷義直 地域福祉グループ リーダー 木村忠好 保健福祉兼生涯現役まちづくりグループ リーダー 磯村和志 人事グループ リーダー 杉浦崇臣 税務グループ リーダー 山下浩二 行政グループ リーダー 山本時雄 企業支援グループ リーダー 島口靖 上下水道グループ リーダー 杉浦睦彦 (24名出席)	
	<b>事務局</b>	企画部長 神谷美百合 総合政策グループ リーダー 野口恒夫 同 主幹 榊原雅彦 同 主査 山本久美 同 主事 稲垣翔太 同 主事 岡田真吾 同 主事 加古博紀 同 主事 川合晃三 (8名出席)	

次 第	1 あいさつ 2 議題 1) 「施策評価シート」(内部評価)の発表について〔基本目標Ⅰ・Ⅱ〕 3 その他
資 料	資料1：第6次高浜市総合計画推進会議(第1回) 会議録 資料2：施策評価シート【平成27年度の取組みに対する行政内部の評価】

## 1. あいさつ

- 会 長： ・本日は、中期基本計画に掲げた目標の達成状況を点検・確認するということで、行政内部でとりまとめた「平成27年度施策評価シート」の内容を発表していただく。
- ・本日第2回推進会議では、基本目標Ⅰ（自治推進・財政運営・公共施設に関する分野）、及び基本目標Ⅱ（生涯学習・学校教育・子育て子育てに関する分野）の発表、8月5日開催の第3回推進会議では、基本目標Ⅲ・Ⅳの発表を行う。
- ・27年度の実行内容や成果、見えてきた課題などをしっかりと確認し、私たち委員から今後に向けて、取組みをよりよくするための意見を述べてまいります。

## 2. 議題

### 1) 「施策評価シート」（内部評価）の発表について〔基本目標Ⅰ・Ⅱ〕

- 会 長： ・議題1「施策評価シート（内部評価）の発表」に入る。
- ・発表の前に、事務局から、発表のねらい、発表方法などについて、説明をお願いしたい。
- 行 政： ・今回の「施策評価シート」の発表は、目標の達成に向けて平成27年度にどんなことに力を入れて取り組み、目標の達成状況はどうだったのか、取り組みや「市民意識調査」等の結果から見えてきた課題や今後の方向性について、各担当グループリーダーから説明する。
- ・発表にあたっては、シートの『Ⅲ-3. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）』と、「Ⅳ. 課題と今後の取り組み」を中心に、課題をどのように捉え、課題解決に向け今後どのように取り組んでいこうと考えているのかといった決意を発表する。
- 会 長： ・では、発表に入る。まずは基本目標Ⅰの発表ということで、資料2の22ページ、目標（1）の発表からお願いしたい。
- 行 政： <資料2 22～25ページを基に発表>
- 会 長： ・ただいまの発表でご意見等があればお願いしたい。
- 委 員： ・しあわせづくりの実践の仕組みとは。
- 行 政： ・今年度職員の実践プロジェクトをスタートさせた。今後は市民にも幅を広げ、市民がしあわせを感じるための取組みを実践していく。
- 委 員： ・町内会やまち協が行ういろいろな活動の周知を、ブログやホームページを使って行うよう、市から働きかけを。
- 行 政： ・市ではフェイスブックを立ち上げた。待ちの姿勢ではなく、今後は積極的にまち協・町内会などが行う地域活動の情報も発信していきたい。
- 委 員： ・若手職員とはどの職員を想定しているか。
- 行 政： ・新規採用職員から5年目の職員を想定している。
- 委 員： ・もう少し上の年代も成長していただきたい。
- 会 長： ・続いて、26ページ 目標（2）をお願いしたい。

- 行政： <資料2 26～29ページを基に発表>
- ・実際の財政運営について、例として借金残高の推移では、平成11年度で160億円であったが、平成27年度末では約80億円と半減しており、将来を見据えた財政運営という点では評価できると考える。
  - ・約4億5千万円ある市税の収入未済額を、いかに収入につなげていくかに注力していく。
- 会長： ・ただいまの発表でご意見等があればお願いしたい。
- 委員： ・全職員の折衝力向上の具体的な施策は。
- 行政： ・これまで財産の差押や競売、家宅捜査等を実施してこなかったが、こういった活動に職員を参加させることで向上を図っており、その成果として折衝力は上がっていると感じている。
- 委員： ・公共施設の取組みについての財政面の説明をもう少し分かりやすく伝えることで、市民の理解につながると考える。
- 行政： ・市民の意見を汲み取り、疑問に答える形で情報を発信していく。
- 会長： ・国がファシリティマネジメントに関する計画を出せと言っている。このことも市民に知らせておくべきではないか。
- 行政： ・平成26年4月に国から「公共施設総合管理計画」を策定するよう要請があり、当市も策定をした。このことに関して、各地区で説明会を行ったがなかなかうまく伝えることができなかった。
- ・これまでは施設を作る一方だったが、今後はどうしても減らしていかなざるを得ない。市民の皆さんのご理解を得ながら進めていきたい。
- 会長： ・委員の意見をまとめると、市内にある公共施設の維持管理、また、建て替えるのにどれだけのコストがかかるか、耐震化の状況などを図表化・可視化すると分かりやすいのではないかと、ということであると思う。
- 会長： ・続いて基本目標Ⅱの発表に入る。資料30ページ、目標（3）の発表をお願いしたい。
- 行政： <資料2 30～33ページを基に発表>
- 会長： ・ただいまの発表でご意見等があればお願いしたい。
- 委員： ・公民館の解体について、利用者へ市からの働きかけはしないのか。
- 行政： ・施設の定期利用者（市内）やホール利用者（市内）についてはこちらからお声掛けをし、活動の代替場所を探してみえる場合には、「この時間はどこの施設が空いてますよ」などの情報をお伝えしている。
- 委員： ・公共施設の長年の利用者には、既得権と感じている方も多い。そういった市民の感情を汲み取っていかないと、今後施設を廃止していくにあたり大変なことになると思われる。一度溝が深くなると、市民も聞く耳を持たなくなる恐れがあるので、これから進めることについては、より慎重に進めてほしい。
- 委員： ・今後作成する市誌、加えて現在の市誌の電子化を検討してほしい。
- 行政： ・検討させていただく。
- 委員： ・施設の関係は、できるだけ早く情報を流してほしい。
- ・今後施設が廃止されていくと、ますます指標や市民意識調査の結果が低下す

- る恐れがある。まちへの愛着・誇りを高めていくためのイベントを企画するには、ある程度融通を利かせる交付金の枠も必要ではないか。
- 行政：・情報を出すタイミングも考慮しながら、早めの情報発信に努める。  
・市の予算も限られているため、その中で何が一番大切なのかを市民の皆さんと協議しながら取り組んでいきたい。
- 会長：・生涯学習の体系、及び施設は公民館だけではないということを、市民の皆さんにご理解いただく必要がある。  
・財政の縮小、高齢化の進展などにより、現在の公共施設を維持していく力はいずれ落ちていく。そういった現状を共有することが大切である。  
・既存施設の転用（Conversion）を検討してはどうか。実際には空いているのに使っていないというケースが大都市ではよくある。その施設をフルに使うというこの思想は、非常に大切であると言われている。  
・行政の部局間でお互いに協力・融通し合うこと（Crossover）、1つの施策だけのために施設を使うのではなく、複合的な施策効果を目指して使うこと（Complex）、市民と一緒に考え、プロセスを共有すること（Co-Production）、これら4つの“C”で、難局を解決できると思われる。
- 会長：・続いて、34ページ 目標（4）をお願いしたい。
- 行政：　　＜資料2　34～37ページを基に発表＞
- 会長：・ただいまの発表でご意見等があればお願いしたい。
- 委員：・先生方のご尽力のおかげで、高い数値を維持しており良い傾向にある。異校種事業の効果が出ていると実感する。  
・高校でカリキュラムの中に「コミュニケーション能力の育成」を加えてはどうか。
- 行政：・あらゆる活動の中にもその要素はあるため、単元構想を工夫して取り組んでいきたい。
- 委員：・高浜カリキュラムの推進にあたり、どのように地域の方と関わっているのか。
- 行政：・これまでの実績でいうと、小学校の生活科で野菜作りを教わったり、防災の講師役など。これからも地域で協力いただける方を発掘していきたい。
- 委員：・発掘に際し、例えば「タカハマ！まるごと宝箱」の関係者の方を使うなど、横のつながりを意識してほしい。
- 委員：・学校側で地域と接触しているのは4役が中心。しかし、将来を見据えるとなると、若い先生ももっと積極的に地域と関わるように学校として考えてほしい。そういった意識を持つことが肝心。  
・ただ地域に出るだけではなく、責任を持って地域と接しないと、次につながらない。
- 行政：・積極的に進めていく。
- 会長：・続いて、38ページ 目標（5）をお願いしたい。
- 行政：　　＜資料2　38～41ページを基に発表＞
- 会長：・ただいまの発表でご意見等があればお願いしたい。
- 委員：・保護者への事業のPRは。

- 行政： ・子どもを通じてチラシを配布、内容も分かりやすく工夫している。
- 委員： ・チラシはあまりあてにしていない。例えばPTAの総会などに積極的に出向いて、PRすることも必要ではないか。
- 行政： ・今年度検討したが、足踏みをしてしまったため、再度相談していきたい。
- 委員： ・実際に高浜に待機児童は相当数いるのか。
- 行政： ・待機児童は1ケタではあるが発生している。希望の園に入れず待っている状況がある。
- 委員： ・どこでもいいから入れなきゃ困るという方については、入ることができているという状況か。
- 行政： ・そうだと思う。転入をされた方やお勤めをされている方で、育児休業から復帰される方が待っている状況であると認識している。
- 委員： ・PTA総会にはあまり親御さんが出てこないと聞いたことがある。
- 委員： ・PTA総会はいくまでも一つの例で、他にもいろいろな手段があると思う。
- 会長： ・いずれにせよ、ありとあらゆるチャンスを使えということ。  
・保育園の定数を増やせば増やすほど、逆に待機児童が増えるという現象も起きている。
- 委員： ・ある私立幼稚園では、しつけのようなことを行っており保護者が引っ張られていると聞く。保育園のカリキュラムに入れ込むことも考えてはどうか。
- 委員： ・ここ数年で、どのくらい公立幼稚園の入園率が低下し、逆に保育園のニーズが増えているかなどの情報をしっかり今から出していかないと、いざ認定こども園化する時に反発を買うおそれがある。  
・段階を踏んだ情報発信をし、早めに具体的な数字を挙げていくべき。
- 会長： ・全国的に公立幼稚園の入園は激減している。  
・委員のおっしゃる通り、どれだけ減少しているのかを数値化することで、市民の認識も深まる。
- 会長： ・それでは、最後に委員の皆さま方お一人おひとりから、ご発言をお願いしたい。
- 委員： ・資料が多すぎる。A3用紙1枚でまとめ、どのように成果をあげるかを考えるべき。書くことが目的になっていないか。
- 委員： ・市誌編さんについて、知り合いに高浜の生き字引がいるので、ぜひ取材に来てほしい。
- 委員： ・作り上げたこのシートを、いかに活用するかが肝心。  
・高浜はこれだけやっているんだということを、ケーブルテレビなどを活用しながらきめ細かく発信してほしい。
- 委員： ・若い世代は順調に育っている。PTAを任せられる親世代があまり育っていないかなと感じる。いい子どもが育つのは親があつてこそ。親もいろいろ勉強することが大事。
- 委員： ・高浜はいいまち。高浜をより良くするため一緒に頑張りましょう。
- 委員： ・【DO】の「どのように」の部分を中心に考えて進めていくように。さらに掘り下げて、何をするかを明確に。

- 委員：・幼稚園の卒園式に出席し、学校と家庭教育がとても近いと感じた。その近さを利用して何か考えられたらと思う。
- 委員：・ピッチエフエムともっと協力体制を築いてはどうか。
- 委員：・ラジオを聞いて感じたことが、あらゆることが高浜の中だけの情報提供に留まっていることである。
- 委員：・市役所でやっていることが伝わらないのはくやしい。他市の人が「高浜って面白いことやってるよね」って言うってくれる方が、市民はうれしいと思う。
- 委員：・高浜の就園前の子育て支援施策は全国的にも進んでいて手厚いと実感している。その部分をもう少し盛り上げていけると、お母さんたちが子育てのことを顧み、いろんな課題にも柔軟に対応できると思う。
- 委員：・親の子ども離れが低年齢化しており、地域ぐるみで働きかけることが大事で、その部分を見てあげられるといいと感じる。
- 委員：・もっと子どもが「学校が好き」と言えるように。
- 委員：・貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。
- 委員：・指標の結果を見ると、中央公民館解体を計画的・効果的でないという市民活動の影響を受けていることが見て取れる。
- 委員：・推計では、2040年には人口が5万人に近付くが、生産年齢人口は10%減る。そのことで、社会保障費は増大するが、税収は先細りする。先を見据えた運営を行っていることを、市民の皆さんに地道に伝えていく。
- 委員：・既存施設の転用は、一部実現に向けて進めている。
- 委員：・幼稚園については、現在定員に対し6割程度と認識している。それだけ保育園に流れているということ。幼稚園のキャパを一部保育園へ組み替えることを考えている。
- 委員：・ピッチエフエムについては、当時自主自立の経営の観点からお断りをした経緯があるが、いただいたご意見について検討したい。
- 会長：・実績値と市民意識調査の結果がズレているところが見受けられるようになった。行政は頑張っているのに、市民はそう思っていない。社会環境や背景も要因として考えられるが、広報・伝達の仕方が問われてきている裏付けだと思う。
- 会長：・先ほど申し上げた4つの“C”が重要になる。
- 会長：・委員の皆さまに事前に「コメント用紙」が送付されている。本日の発言だけでは言い足りなかった点などがあれば、次回発表のある目標（6）から（11）に対するコメントと合わせて、8月8日（月）までに事務局へご提出をお願いしたい。
- 会長：・事務局の方では、本日、委員の皆さんからのご発言、コメント用紙の概要を、「施策評価シート」の「V. 推進会議による点検・確認結果」の欄にとりまとめていただき、次々回（第4回）の推進会議で「推進会議からのコメント」として確定するという形で進めてまいりたいので、よろしくをお願いしたい。

## 2. その他

- 会 長： ・「その他」に入る。事務局から何かあればお願いしたい。
- 行 政： ・前回第1回推進会議でお話しした「地域計画改訂版」を配布する。総合計画にも、『市政運営にあたっては「地域計画」を“地域の想い”として尊重すること』と謳っているので、ご一読いただきたい。
- ・次回は8月5日（金）午後7時から。基本目標Ⅲ・Ⅳの発表となる。
- 会 長： ・ただいま事務局から説明があったとおり、次回第3回推進会議は、基本目標Ⅲ（産業振興・環境保全・都市基盤整備・安心安全に関する分野）、及び基本目標Ⅳ（地域福祉・健康に関する分野）の発表となる。
- ・行政におかれましては、本日の委員の皆さま方からのご意見を踏まえ、今後の施策に活かしていただくようお願いしたい。
- ・これをもって、第2回総合計画推進会議を終了する。